小学3年生

文章読解にぐーんと強くなる

別冊解答書

・（　）は、答えにあってもよいものです。
・〈　〉は、べつの答え方です。
・れい は、答えのれいをしめしています。
・答えといっしょに、かいせつも読みましょう。
・答えに文字数などの指定がない場合、習っていない漢字は、ひらがなで書いていても正かいです。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　1　2024/01/24　13:34:55

1 せつ明文 話題とせつ明をつかむ —話題 きほん 4・5ページ

❶ しっぽ・短い
❷ （自分の）体にぴったり
❸ ウ
❹ イ

かいせつ

❶ 第一段落の「問い」の文から、話題を読み取ります。モグラについて、「なぜしっぽが短いのでしょうか？」と問いかけて、話題をしめしています。

❷ ――と同じ段落で、モグラは「感しょくを手がかりに生活している」ので、「自分の体にぴったりなトンネルをほ」るとせつ明されています。「見える」とは、ここでは体の毛がふれる感覚でまわりの様子が分かることを言っています。

❸ 「T字路にたどり着く前に、～どうするのでしょうか？」という「問い」のある段落に注目しましょう。

❹ 第五段落で、しっぽが長いと、後ろむきに速くにげるときにじゃまになるので、モグラのしっぽは短いのだとせつ明されています。

2 せつ明文 話題とせつ明をつかむ —話題 練習 6・7ページ

❶ イ
❷ 新聞・図や写真、グラフ、地図など
❸ ウ
❹ 興味・写真・前文・世の中

かいせつ

❶ 文章の中でくり返し出てくる言葉や、くわしくせつ明されていることに注目しましょう。それが、この文章の話題です。

❷ ①「これら」とあるので、直前の文にその内容が書かれています。

❸ 3と4の段落は、新聞のよいところの二つ目をまとめています。4の段落に、「読みたい記事から読み進められ」ることが書かれているため、ウが正かいです。

❹ ②「これ」とあるので、直前の文章に注目します。新聞は「興味がない分野の記事でも、～読むことがあ」ること、「見出しを見たり、～ごく短時間に世の中を知ることもでき」ることが書かれています。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 2 2024/01/24 13:34:55

3 せつ明文 話題とせつ明をつかむ —話題 おうよう 8・9ページ

❶ どうして・なにがかわる
❷ かたい・軽い
❸ ア
❹ くさらない・長く食べられる

かいせつ

❶ 「～だろう？」などで終わる「問い」の文に注目して、文章の話題をとらえましょう。

❷ イカについては第三段落、大根については第四段落でせつ明されています。

❸ □の前の文では水分が多い食べものがくさってしまうことがせつ明されていて、後では「干して水分をぬく」と書かれています。前の文が後の文の理由になっているので、「だから」が入ります。

❹ 干して水分をぬくことで、食べものをくさりにくくすることができ、それが、食べものを長く食べられるようにする工夫であることが第七段落に書かれています。

4 せつ明文 話題とせつ明をつかむ —指しめす言葉・つなぐ言葉 きほん 10・11ページ

❶ にがかったり ❷ ウ
❸ (1) にがみ・あまく
(2) じゅくして・芽を出す

かいせつ

❶ 「その」とあるので、前の部分を見ます。①「そのとき」は、キュウリやレモンなどが「すっぱかったり、にがかったりする」ときを指します。

❷ ②「けれど」は、前の文と反対の内ようが書かれた文をつなぐ言葉です。文をつなぐ言葉が、どのような内ようの文をつなぐはたらきをするかをおさえておきましょう。

❸ (1) ③――のすぐ後の文で、「それは、～ことです。」とせつ明されています。
(2) 「そのころ、」から始まる文に注目しましょう。「そのころ」は、にがみが消えたりして、もう食べてもいいサインが出るころのことです。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 3 2024/01/24 13:34:55

5 せつ明文 話題とせつ明をつかむ ―指しめす言葉・つなぐ言葉

練習 12・13ページ

❶ は虫類・きょうりゅう・鳥
❷ イ ❸ おそわれる・木の上・小動物
❹ (1) ウ (2) ア (3) イ

かいせつ

❶ ①――の次の段落に書かれています。進化のじゅんに気をつけて、書きましょう。

❷ □の前後の文の内ようをくらべます。前の文では、「かつてはそう(＝トカゲやワニがきょうりゅうの生きのこりであると)考える学者もいました」、後の文では、「きょうりゅうの子孫は鳥だということが明らかになっています」とあり、ちがう内ようを言っているので、イが合います。

❸ ②――の直後の文に「さて、よかったわけはなんでしょう。」とあり、直後の段落で、二つの「わけ」がせつ明されています。

❹ ③――の直前の「これ」は、同じ段落の、「ほかのなかまより～受けつがれていくのです。」を指します。

6 せつ明文 話題とせつ明をつかむ ―指しめす言葉・つなぐ言葉

練習 14・15ページ

❶ ウ ❷ 一文字目・ラ行
❸ ア
❹ (1) ルール〈きまり〉・ゆるい〈自由だ〉
(2) それまでな

かいせつ

❶ 文と文をつなぐ「たとえば」は、例をあげてせつ明するときに使われます。

❷ 「それ」などの指しめす言葉は、直前を見ます。ここでは、「単語の一文字目の～という決まりがあった」ことを指します。

❸ 前後の内ようを見ます。前は、日本語に昔からある言葉の「単語を作る時の『音』についてのルール」が書かれ、後は、「このルールを守ら」ないぎ音語・ぎたい語について書かれています。反対の内ようが書かれているので、アが正しいです。

❹ ぎ音語・ぎたい語について書かれた後半の三つの段落に注目します。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 4 2024/01/24 13:34:56

7 せつ明文 話題とせつ明をつかむ ―指しめす言葉・つなぐ言葉 おうよう 16・17ページ

❶ 仕事・協力・結びつき・（いっしょに）働く
❷ ア
❸ 気を配る・がんばる・心・体
※「心」「体」はじゅんじょがちがっても正かい。
❹ イ

かいせつ

❶ 筆者は、これからの社会がどんなふうに変わっていくかについて、インターネット・SDGs・AIやロボットを取り上げ、第二～四段落でのべています。

❷ □の前後の段落の内ようをおさえましょう。□の前の第四段落では、人間が、AIやロボットといっしょに働くことがふつうになったときに、人間にしかできないことが求められるとのべています。□の後の第五・六段落では、そのれいが書かれています。

❸ 第七段落に注目してとらえましょう。

❹ 第八・九の段落から読み取りましょう。

8 せつ明文 話題とせつ明をつかむ ―指しめす言葉・つなぐ言葉 おうよう 18・19ページ

❶ イ
❷ 自分の意見をちゃんということがとてもだいじ
❸ いいたいこと・話のポイント・くり返して
❹ れい 話を聞くときは、うなずきながら聞くといいと思います。理由は、話をしっかり聞いていることが、話している人につたわるからです。

かいせつ

❶ □の前後の文を見ます。「だまっているほうがえらいと思ってい」たことは、「『スピーチ』（演説）というものがなかった」ことの理由になるので、「だから」が入ります。

❷ ①――のすぐ前に「そこで」とあるので、その前に理由が書かれています。

❸ ②「一分スピーチ」の話し方については、第四～七段落に書かれています。

❹ 話の内ようをきちんと聞き取るため、または話し手に話しやすいと感じてもらうためにどのようなことに注意するとよいかをそうぞうして書きましょう。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 5 2024/01/24 13:34:56

9 物語 内ようをつかむ ―場面・出来事

きほん 20・21ページ

❶ 友子・泣き声
❷ (1) イ・ウ　(2) もどして
❸ ア

かいせつ

❶ ①――の前の部分に「もし友子が、～大きな泣き声をあげていなかったら、」とあるので、友子が大きな泣き声をあげたという出来事によって、モユちゃんは友子のうちに来たのだと分かります。

❷ (1) モユちゃんは、「よろよろ歩き」をしていて、うしろ足にけがをしていました。
(2) モユちゃんをつかまえたおとうさんは、「たぬきの巣穴～へもどしてやろうと思った」とあります。

❸ 「友子のうちのひとになった」とは、友子や友子の家族といっしょにくらすようになったということです。つまり、モユちゃんが友子のうちでかわれるようになったということを表しています。

10 物語 内ようをつかむ ―場面・出来事

練習 22・23ページ

❶ ほうりだされて　❷ ち・しっぽ
❸ ウ　❹ ア・ウ

かいせつ

❶ ①――の次の文を見ると、自転車にのっていた男の子が、自転車が横だおしになったために、じゃり道にほうりだされたことが分かります。

❷ ②――のすぐ後の「しっぽであらってあげましょう。」という女の子の言葉から、きずをしっぽであらってあげようと思いついたことが分かります。

❸ ③――の次の文に、「これは子だぬきの『しっぽ』だ」とあることから、女の子は本当は子だぬきで、そのしっぽできずをあらっていたということに、男の子が気づいたことが分かります。

❹ ④――の次のまとまりから、きずをあらってくれたことへのおれいに、男の子が女の子にキャラメルをあげていっしょにたべたり、町で見たおもしろいはなしをしてあげたりしたことが読み取れます。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　6　2024/01/24　13:34:56

11 物語 内ようをつかむ ―場面・出来事

おうよう 24・25ページ

❶ 小ざかな・（赤い）リボン・ちびこ
❷ ・ばあさんと…ウ　・じいさんと…ア
❸ みじかいな　❹ ばあさん・てっぽう

かいせつ

❶ 「子ぎつねは～こやまでついてきた。」の後の部分から読み取ります。「ちびこ」という名前をつけてやったことは、ばあさんの「もうちょっと～な、ちびこや」という言葉から分かります。

❷ ――のすぐ後の二文から、子ぎつねが、ばあさんやじいさんとしたことをとらえましょう。

❸ 「みじかいなつのおわりのある日。」という文から、話の流れがかわることをおさえましょう。

❹ 前半では、子ぎつねが、じいさん、ばあさんといっしょに、なかよく平和にくらしている様子がえがかれています。後半では、ちびこがへいたいにてっぽうでうたれそうになるという、じけんの様子がえがかれています。

12 物語 内ようをつかむ ―気持ち・せいかく

きほん 26・27ページ

❶ イ　❷ ウ
❸ 味方・くやしさ
❹ イ

かいせつ

❶ マユミが「また、ケンちゃんがいたずらして、もちだしたのね」といっていることから、コンパスがなくなった理由を、ケンちゃんがいたずらして、もちだしたからだと考えていることが分かります。

❷ マユミは「ぷりぷりして」いったとあるので、はらを立てている気持ちが読み取れます。

❸ ②――の後に、「おかあさんは、いつだって、ケンちゃんの～むねがいっぱいになりました。」と書かれていることから考えましょう。

❹ マユミは「なんでも、あたしのせいにする」といっていることから、はら立たしい気持ちのこもった声を表す「とがった」声だと分かります。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　7　2024/01/24　13:34:57

13 物語だより 内ようをつかむ ―気持ち・せいかく

練習 28・29ページ

❶ ギザ歯のオオグチ
❷ ウ
❸ イ
❹ ア

かいせつ

❶ ①――の直後の心の中のことばに注目すると、きっくんがつりあげた魚のふてぶてしさに、「ぼく」はきっくんが「ギザ歯のオオグチ」をつったのではないかと思ったことがわかります。

❷ ②――の直後の文に注目すると、魚がつれたときは、いいふらしたくてたまらない気持ちになることを、「ぼく」もよくわかっていることが読み取れます。

❸ 「ぼく」が気を落としていると、タケが「ぼく」はきっくんに負けているわけではない、ということをいってくれて、「ぼく」は元気を取りもどしたのです。

❹ 兄である「ぼく」がつりそうになった魚のほうがもっと大きかったということをいって自まんし「ぼく」の味方をしてくれるところに対して、「かわいい」と思ったのです。

14 物語だより 内ようをつかむ ―気持ち・せいかく

練習 30・31ページ

❶ 先生・さびしい
❷ イ・エ
❸ ㋐エ ㋑イ
❹ ア・エ

かいせつ

❶ 先生がウサギを育ててみるといって、ウサギをセーターのなかに入れたとたんに、「ぼく」のおなかが寒くなり、とてもさびしく思っていることから、そのために泣きたくなったのだと分かります。

❷ ――の直後の文に、「ぼく」がウサギを育てるのをあきらめた理由が二つ書かれています。

❸ ウサギのことを気にかけていることから、㋐には「心配」が当てはまります。ウサギがぶじであることを知り、「ぼく」に声をかけていることから、㋑には「安心」が当てはまります。

❹ ウサギを育てたいと思っていたことや、先生のおなかをさわれずにはずかしくてもぞもぞしてしまう様子から、「生き物がすきで、やさしい」「はずかしがりや」という「ぼく」のせいかくが分かります。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 8 2024/01/24 13:34:57

15 物語 内ようをつかむ ―気持ち・せいかく

おうよう 32・33ページ

❶ イ　❷ うき島・ながされて
❸ ウ　❹ ルル…エ・イ　キキ…ウ・ア

かいせつ

❶ ①――は、血の気がひく様子を表します。直後の文に、ペンギンの島が見えないことが書かれています。大へんなことになってしまったと感じていることがわかります。

❷ ②――の直後の文に注目します。ルルたちののったうき島がとおくまでながされてしまったので、すぐにはかえれないことが、ルルにはわかってきたのです。

❸ ルルは、自分もかえりたかったのですが、キキがなきだしてしまったので、はげまそうとしています。

❹ ルルは、なきだしたキキをげんきづけようとしていることから、れいせいで、しっかりしたせいかくであることがわかります。キキは、ルルの言葉を聞いて、なみだが出るのをこらえていることから、がまん強いせいかくであることがわかります。

16 物語 内ようをつかむ ―気持ち・せいかく

おうよう 34・35ページ

❶ イ　❷ いもむし・（とっても）かわいそう
❸ やさしい・よわむし
❹ れい（○）おもっていない。
はるのくんがないたのは、いもむしがかわいそうだったことが原いんだから。

かいせつ

❶ ①――の直後の文に注目しましょう。「はるのくん、すごく、いやな気もちになったかもしれない」と考えて、「ぼく」はしんぱいになりました。

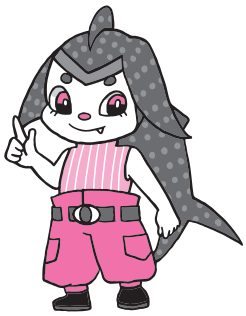
❷ はるのくんは、かだんのところで、もうすぐちょうちょになるいもむしがたくさんつぶされていて、とてもかわいそうだったため、ないていました。

❸ さい後の二つのまとまりにあるように、はるのくんの言葉をきいた「ぼく」は、たくさん考えて、はるのくんがないていたのは、やさしい気もちからであって、よわむしだからではないということがわかったのです。

❹ あなたの考えと、文章から読み取れることをもとに理由が書けていれば正かいです。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　9　2024/01/24　13:34:57

ここまでに読んだ文章で、すきなものはあるかな？
同じ人が書いた本や、同じものをせつ明している本などをさがして読んでみると、楽しいよ！



17 せつ明文 段落と要点をつかむ ―要点 きほん 36・37ページ

❶ マヨネーズ・分かれてしまう〈分かれる〉
❷ マヨネーズ・卵
❸ 油・水
❹ イ

かいせつ

❶ 2の段落には、「これはなぜでしょうか。」という「問い」の文があります。「これ」は、直前の内ようを指しています。

❷ 3の段落に、「何がちがうでしょうか？　そう、卵です！」とあります。2の段落でしめされた材料を見比べてたしかめましょう。

❸ 4・5の段落に注目してとらえましょう。

❹ 2の段落でしめされていた問いに、5の段落で答えています。5の段落では、「マヨネーズは卵黄にふくまれる乳化ざいのおかげで、水(お酢)の中に、とても小さな油のつぶがたくさん散らばっている状態をたもつことができる」ということがせつ明されています。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　10　2024/01/24　13:34:58

18 せつ明文 段落と要点をつかむ ―要点 練習 38・39ページ

❶ イ
❷ 上がった・のがれて
❸ ア
❹ 5
❺ れいいつつ波がやってきてもひ害を受けないようにするため。

かいせつ

❶ 「問い」の文に注目して読み取りましょう。

❷ ――の前に、「この貝塚遺せきも、つ波のひ害からのがれていました」とあります。「この貝塚遺せき」は、「大船渡湾のおくのほうの、坂をわずかに上がったところにあ」る「大洞貝塚」のことを指しています。

❸❹❺ 4の段落では、「縄文人たちの集落が高台にあること」について、これまでいわれてきたことが書かれています。5の段落では、これまでいわれてきたこととはちがう筆者の考えが書かれています。「～といわれてきました」「～だろうと考えることもできるでしょう」といういい方に注意して読み取りましょう。

19 せつ明文 段落と要点をつかむ ―要点 おうよう 40・41ページ

❶ ウ
❷ 一番早くさく・南・北・四国
❸ 夏・中止〈お休み〉
❹ めざめ・寒さ〈低温〉
❺ 7

かいせつ

❶ 3の段落では、「問い」の文で話題がしめされています。

❷ ①――の直後の文で、「それは、～ことです。」とせつ明されています。

❸ 5～7の段落に注目してとらえましょう。

❹ 6・7の段落で、花芽を休みんからめざめさせるには「寒さ(低温)」が必要なこと、南のあたたかいところでは、その寒さが少ないため休みんからめざめるのがおそくなることがせつ明されています。

❺ 「その答え」の「その」は、3の段落の「それは、～なぜでしょう？」という問いを指します。「九州の北や、四国」の桜が「一番早くさく」理由は、7の段落の「そのため」で始まる文の直前でまとめられています。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 11 2024/01/24 13:34:58

20 せつ明文 段落と要点をつかむ ―段落の関係 きほん 42・43ページ

❶ 勉強・仕方なく

❷ ・入るとき…おなか・心
※じゅんじょがちがっても正かい。
・入らないとき…頭

❸ 6

かいせつ

❶ 2・3の段落では、〝たべたいスイッチ〟が「オンになる」「入る」ときについて書かれています。それと反対に、4・5の段落では、「入らない」ときについて書かれています。「逆に」という言葉に注目して、段落の関係に注意しながら、内ようを読み取りましょう。

❷ 2の段落で具体的にせつ明したことを、3の段落で言いかえてのべています。4の段落と5の段落の関係も同じです。

❸ 筆者は6の段落で、「大切なのは、はらペコかどうかと、自分にとって『おいしそう』かどうかだ。」と、考えをまとめています。

21 せつ明文 段落と要点をつかむ ―段落の関係 練習 44・45ページ

❶ ニ ❷ ウ

❸ 横にまっすぐのびている・地面・とがった・手

❹ ア

かいせつ

❶ 1の段落に書かれています。

❷ 2の段落でサイが「独特な口の形をしてい」ることが書いてあります。それを受け、3の段落ではシロサイの、4の段落ではクロサイのくちびるの特ちょうを、「一方で」という言葉を使ってくらべながらせつ明しています。

❸ 3・4の段落の内ようをまとめます。

❹ 5の段落の内ようをとらえます。はじめの文に、「シロサイは、世界にいるサイのなかで最も体が大きく、体長は四メートル、重さは三トンをこえることもあ」ると書いてあります。よって、アが正かいです。イは、「クロサイ」がちがいます。ウは、「クロサイの角」が「三メートル」というところがちがいます。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 12 2024/01/24 13:34:58

22 せつ明文 段落と要点をつかむ ―段落の関係

練習 46・47ページ

❶ (1) 生きぬいて〈生きて〉
(2) トンボ〈アカトンボ〉・届かない
(3) ジャンプ・後ろ足・たぐりよせ

❷ 失敗・知え

❸ ア

かいせつ

❶ (1) 1の段落で、「～でしょうか？　その不思議を調べたい」と実験をする目的が書かれています。
(2) 2・3の段落に、実験の方ほうが書かれています。
(3) 4～6の段落に、実験のけっかが書かれています。

❷ 7の段落からとらえましょう。「この実験から、～わかりました。」という一文があるので、この内ようをまとめます。

❸ この文章は、次のような組み立てになっています。
1…文章の話題
2～6…話題についてのくわしいせつ明
7…まとめ

23 せつ明文 段落と要点をつかむ ―段落の関係

おうよう 48・49ページ

❶ うまみ・苦味・ふくざつ　❷ イ

❸ 例「好ききらいはだめ」といわれる

❹ 病気・食べられなくなる

❺ ウ

かいせつ

❶ 4・5の段落から読み取りましょう。

❷ □の前の5の段落からいえることが、6の段落に書かれているので、「だから」が合います。

❸ 7の段落の「子どもが『好ききらいはだめ』といわれるのは、」からとらえましょう。

❹ 「そんなとき」は、9・10の段落の内ようを指しています。

❺ 1・2の段落でしめされた話題について、7～11の段落でくわしくせつ明し、その内ようを12の段落でまとめています。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　13　2024/01/24　13:34:59

24 せつ明文 段落と要点をつかむ ―段落の関係 おうよう 50・51ページ

❶ 古くから多くの人に親しまれている言葉のもつ・回文になっ

❷ イ

❸ れい 作るもの…回文　作ったもの…せみのきのみせ（セミの木の店）

❹

かいせつ

❶ ①――の直後の文でせつ明されています。

❷ 「楽しさ」という言葉に注目してさがします。

❸ 1の段落は「～でしょうか」という「問い」の文があるため、話題をしめす段落だと分かります。2・3の段落はそれぞれ、言葉遊びのれいとして「しゃれ」と「回文」をあげてせつ明しています。4の段落は「このように」から始まっているため、まとめの段落だと分かります。

❹ えらんだ言葉遊びの内ように合ったものを考えて書けていれば正かいです。

せつ明文を読んで、もっと知りたいと思うことがあったら、本やインターネットを使って調べてみよう！調べたことを文章にまとめてみてもいいね！

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　14　2024/01/24　13:34:59

25 物語 全体をつかむ ―場面・気持ちのへん化 きほん 52・53ページ

❶ ウ　❷ イ

❸ (1) 二、三十・(茶色の) ザリガニ

(2) れい たった一ぴきの、自分のザリガニをはずかしく思う気持ち。

かいせつ

❶ ふさ子がザリガニをよろこんでくれたので、あゆむは気をよくして、がんばってつかまえたものであることをみとめてもらいたい気持ちになりました。

❷ つかまえたときのことを話しながら、あゆむは「とくいになった」と書かれています。

❸ (1) しげおがもってきたふくろの中に、二、三十ぴきのザリガニが入っていたので、ふさ子たちだけでなく、あゆむもびっくりしました。

(2) しげおが、二、三十ぴきのザリガニをもってきたことをきっかけに、それまでザリガニをもってきたことをとくいに思っていたあゆむは、たった一ぴきのザリガニしかもってこなかったことがはずかしくなりました。

26 物語 全体をつかむ ―場面・気持ちのへん化 練習 54・55ページ

❶ よばれた・たんじょう日　❷ イ

❸ ぼくはね、～てあげる。　❹ ウ

かいせつ

❶ 子どもとりゅうのやりとりに注目します。「まだ、だれからも、～。」「だから、ぼく、いっぺん～たくさんあるよ。」ということばからとらえましょう。

❷ だれからもよばれたことのないりゅうが、子どもからたんじょう日によばれてとまどう様子が、①――の直前の「まごまごしながら」ということばから分かります。

❸ 文章のさい後のほうのりゅうのことばから、りゅうがきらわれてきたことが分かります。そんなりゅうが、子どもから、どんなことばをいわれて、おだやかでやさしい気持ちになったのかを考えます。

❹ ③――の前の、「ああ、ありがとう。～。」「これまで、わしは、～にくまれどおしできたのだよ。」というりゅうのことばから、子どもに出会って、りゅうの気持ちがどうへん化したかをとらえます。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　15　2024/01/24　13:34:59

27 物語 全体をつかむ ―場面・気持ちのへん化 おうよう 56・57ページ

❶ ア ❷ ながれ・ヘトヘト
❸ 足ひれ ❹ イ・ウ・ア

かいせつ

❶ 「まるで水泳選手になったような気分」というたとえに注目します。水泳選手のようにすいすいと、気持ちよく泳いでいる様子を表しています。

❷ ②――があるまとまりと、その前のまとまりに、「ぼく」が浜から遠ざかったところからどのように砂浜にたどりついたのかが書かれています。

❸ ③――の前の二文に注目します。足ひれが片方ないことに気づいてさがしたけれど見つからず、気分がおちこんでしまったのです。

❹ さいしょは気分よく泳いでいたのにながされてしまい、たいへんな思いをして砂浜にもどってきた「ぼく」は、父さんにどなられ、足ひれの片方もなくしてしまい、気持ちがどんどんしずんでいます。

28 物語 全体をつかむ ―あらすじ きほん 58・59ページ

❶ タツオ（くん）・紙
❷ ザンカ
❸ （いたずら）コロボックル・すうっと
❹ ザンカが、タツオにつくり方を教えた。・サザンとザンカがのって、庭の野菊の花までとんでいった。

かいせつ

❶ サザンは、紙の飛行機をつくっているタツオを見ています。タツオがうまくつくれていないので、じれったくなっています。

❷ 「ようし、ぼく、タツオくんに教えてきてあげる。」という言葉の後に注目します。双子の弟のザンカがつくり方を教えたことが分かります。

❸ さい後の二つのまとまりをよく読みましょう。

❹ 登場人物の行動や言葉に注目して、だれが何をしたのかを読み取りながら、お話がどのように進んでいるのかをとらえましょう。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 16 2024/01/24 13:35:00

29 物語 全体をつかむ —あらすじ

練習 60・61ページ

❶ 大きなつけもの石・お米のふくろ
❷ はたらくこと
❸ 〔れい〕おばあちゃんの仕事をてつだってあげること。
❹ イ・ウ

かいせつ

❶ ①——の前のまとまりに注目しましょう。

❷ 「体にしみついてしまったから、」で始まるまとまりの、「ぼく」の心の中の言葉をよく読みましょう。

❸ ③——の後に、「ぼくはペチンとひざをたたいた」とあります。これは、何かを思いついたときの様子なので、その後の文に注目します。

❹ 文章に書かれているおばあちゃんの行動や様子から、おばあちゃんが「はたらき者」であることが分かります。お母さんの言葉をきっかけに、「ぼく」は、おばあちゃんをてつだおうと考えました。

30 物語 全体をつかむ —あらすじ

練習 62・63ページ

❶ 夏休み・水　❷ イ　❸ アヤコ
❹ 〔れい〕ジュンがもってきた、りっぱなコスモスの花をみて、じぶんのコスモスの花をかくした。

かいせつ

❶ タカシがアヤコにコスモスの花たばを見せて、「ぼくがさかせたんだよ。～水をやったんだ」とせつ明した言葉をよく読みましょう。

❷ ジュンのコスモスは「いろとりどり」で、「花が大きく」、「かずも三ばいはありそう」だったので、はずかしくて、出せなくなったのです。

❸ ②——の三つあとのまとまりに、「うしろに、アヤコの顔がみえました。」とあります。このことから、アヤコが先生にタカシのコスモスのことを教えたのだとタカシが思ったことがわかります。

❹ ［　］には、教室にはいったタカシがみたものと、それをみたタカシの行動がはいります。「ジュン」「かくした」という言葉を使って書けていれば、正かいです。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　17　2024/01/24　13:35:00

31 物語 全体をつかむ ―あらすじ

おうよう 64・65ページ

❶ さびしい・くらしたい　❷ イ・ウ

❸ 例 うれしい気持ち　❹ イ・ウ・ア

かいせつ

❶ ①――の直前のおにの言葉から読み取ります。「さびしゅうてならん」は「さびしくてならない」ということです。

❷ ②――のりょうしの言葉の前に、「ここでおにをおこらせてはおおごとじゃ」とあります。また、言葉の後に、「いくらなんでも、おにが島をもってはこないだろう」とあることにも注目して、気持ちをとらえます。

❸ おには、「ほんまにええことおしえてもろた」といっています。りょうしたちといっしょにくらすにはどうすればよいかが分かり、うれしくなって、「にかっと、きばをむきだし」たのです。

❹ おにからなんとかのがれたいと思っているりょうしの行動や言葉に対して、おにがどうしているかをじゅんにとらえて、表にまとめると、あらすじが分かります。

32 物語 全体をつかむ ―あらすじ

おうよう 66・67ページ

❶ しも・おひゃくしょうさん　❷ イ

❸ 例 ねずみくんはなみだが止まらなかったが、はくさいくんのはちまきを見つけ、それを頭にしばって、「負けんぞ！」と大きな声で言った。

❹ 例 はくさいくんがいないさびしさに負けずに、元気に生きていこうという気持ち。

かいせつ

❶ ねずみくんの問いかけに答えているはくさいくんの言葉に注目します。

❷ 「気がかり」とは「心配」という意味なので、後の部分の、「～心配だった。」という文に注目します。

❸ はくさいくんのはちまきを頭にまき、「負けんぞ！」と言ったことが書けていれば正かいです。

❹ はくさいくんはいなくなったけれど、そのはちまきをまいて、「負けんぞ！」と言っているねずみくんの気持ちを想ぞうして書きましょう。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　18　2024/01/24　13:35:01

33 せつ明文 文章の全体をつかむ ―事実と考え

きほん 68・69ページ

❶ 雪と氷
❷ 雪〈雪や氷〉・あたためてとかして
❸ 自分・スイッチ
❹ ア

かいせつ

❶ 第一段落のさいしょの文から読み取りましょう。

❷ 第一段落で、「毎日二回、水をつくっていました。『雪とり！』と号令がかかると、雪を集めて運びます。大きな水そうに入れて、あたためてとかして水にします。」と、くわしくせつ明されています。

❸ 第一段落と第二段落で南極のくらしについて、第三段落で日本のくらしについて、「水」「電気」を取り上げてせつ明しています。

❹ 筆者は、第一～第三段落で、南極と日本のくらしについての事実をあげてせつ明したうえで、「ものは大切にしなくては」という考えをまとめています。事実と筆者の考えを分けて読み取りましょう。

34 せつ明文 文章の全体をつかむ ―事実と考え

練習 70・71ページ

❶ まきや炭・石炭や水力・石油
❷ 人の手・放き
❸ (1)ブナの原生林　(2)こう水・土砂くずれ
※(2)はじゅんじょがちがっても正かい。
❹ 現在、全国

かいせつ

❶ ①――の前の段落の内ようを、エネルギーのへんかに注意しながらまとめます。

❷ ①――の後の部分からまとめます。

❸ (1)②――の後の段落で、「ブナの原生林」が「きりたおされ」たことが書かれています。このことを、その後の段落で『緑のダム』をこわしたこと」といいかえています。

(2)「『緑のダム』をこわしたことで、」より後の内ようが、「ひどく乱暴なこと」を行ったけっかです。

❹ さい後の段落で、筆者は、「現在、全国でわずかしか残っていないブナ林は、本当に本当に貴重なもの」だと書いています。「貴重」とは、筆者の考えです。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　19　2024/01/24　13:35:01

35 せつ明文 文章の全体をつかむ ―事実と考え

おうよう 72・73ページ

❶ 平和・いのち

❷ (1)あだ討ち (2)新たなあだ討ちの理由

❸ 理性・感情・ゆるす〈「ゆるし」〉

❹ ・出来事…れい友だちに借りた本をよごしてしまい、あやまってゆるしてもらったこと。
・感じたこと…れい二度としないように気をつけようと反せいした。ゆるしてもらえてほっとした。

かいせつ

❶ 第一段落に注目してとらえましょう。

❷ 第二段落で、「江戸時代」の『あだ討ち』という制度」をれいにあげてせつ明しています。

❸ 第三、四段落で、筆者の考えがのべられています。「わたしがきみたちに持ってほしいのは、〜ゆるすという大きなこころ」「理性の力を借りて、感情にストップをかけることも必要」とあります。

❹ 自分のけいけんをもとに書けていれば正かいです。

36 せつ明文 文章の全体をつかむ ―要約する

きほん 74・75ページ

❶ プラスチックでできた船・レジぶくろ・ストロー
※じゅんじょがちがっても正かい。

❷ 五ミリメートル・プラスチックごみ

❸ ア

かいせつ

❶ ①――と同じ段落の二文目に書かれています。

❷ ②――の直前に、「これ」という指ししめす言葉があるので、さらに前の部分を見ます。②――の一つ前の文から、「マイクロプラスチック」がどのようなものかが読み取れます。

❸ この文章の話題は「マイクロプラスチック」で、文章の「終わり」の部分では、マイクロプラスチックがさまざまな生き物の体内に広まっている可能性があることが書かれています。よって、アが正かいです。イは第二段落、ウは第三段落に書かれている内ようですが、文章全体の要約になっていません。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 20 2024/01/24 13:35:01

37 せつ明文 文章の全体をつかむ ―要約する 練習 76・77ページ

❶ イ
❷ 働いてお金をもらう仕事
❸ れいお金をもらわない
❹ ア
❺ イ

かいせつ

❷❸ 第三・四段落では、「お金をもらう仕事」（＝職業）について、第五段落では、お金を「もらわない仕事」について書かれています。

❹ □の前の段落では「自分だけの力で生きる」、後では「手分けして～つながりあってい」るという反対の内ようが書かれているので、「でも」が合います。

❺ 第二段落に、「人が働く理由の一つは、お金をえること」、さい後の段落に、「人が働くのは、そのつながりあいに参加するため」とあります。この内ようを要約しているのはイです。

38 せつ明文 文章の全体をつかむ ―要約する 練習 78・79ページ

❶ Ⅰ
❷ どこかでば
❸ ア
❹ むきあい・ひらいていく
❺ 自分探しの旅・新しい自分を発見

かいせつ

❷ 同じ段落に、①――と同じ「～ではなく、～です。」という形の文があることに注目しましょう。

❸ □の前の2の段落には「自分から本に近づいていくことが必要」、後には「読書は自分からの働きかけが必要」とあります。前の内ようから予想される内ようが後につづいているので、「ですから」が合います。

❹ ②――の直前に、「いままでの考え方、見方、生き方などについてふり返り、自分の心とむきあい、自分の心をひらいていくとき」とある部分に注目します。

❺ Ⅰの段落でしめした話題について、2～5の段落でせつ明し、6の段落でまとめています。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 21 2024/01/24 13:35:02

39 せつ明文 文章の全体をつかむ ―要約する

おうよう 80・81ページ

❶ 風・水・熱・（ずっと）昔
※「風」「水」はじゅんじょがちがっても正かい。

❷ ウ

❸ ためて・限界・かん境問題

❹ (1) ウ (2) オ (3) イ (4) ア

かいせつ

❶ 第一段落から読み取りましょう。

❷ □の前後の文に注目します。後の文が前の「再生可能エネルギー」のれいをしめしているので、「たとえば」が合います。

❸ 第二段落で、再生可能エネルギーと化石燃料のそれぞれの問題点があげられています。

❹ さい後の段落でのべられている再生可能エネルギーの長所を中心に、文章全体を要約しましょう。「自然の力を利用して作る」ことは第一段落から、「化石燃料に代わる資源だと注目されている」ことは第二段落から読み取ることができます。

40 せつ明文 文章の全体をつかむ ―要約する

おうよう 82・83ページ

❶ ウ

❷ かたく・うもれて

❸ ていこう〈まさつ〉・（すこしでも）はやく泳ぐ

❹ 皮ふ・病気

❺ (1) れい すこしでもはやく泳げる
(2) れい きずつけない〈素手でさわらない〉

かいせつ

❶ 第一段落から読み取りましょう。

❷ 第三・四段落で、クロマグロの頭の部分についてせつ明しています。

❸ 第二段落に「すこしでも水のていこうをへらしてはやく泳ぐため」、第三段落に「まさつを少なくして、すこしでもはやく泳げるように」とあります。

❹ ――のすぐ後で、「なぜかというと」と理由をせつ明しています。

❺ ❶～❹でおさえたことをもとに、文章の中心となる内ようをまとめましょう。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 22 2024/01/24 13:35:02

41 ずい筆 言葉を味わう

きほん 84・85ページ

❶ 小学三年生・歯医者（さん）　❷ ウ

❸ 勇気・注意深さ

※じゅんじょがちがっても正かい。

❹ ウ

かいせつ

❶ 小学三年生の時の筆者が、初めて一人でバスに乗って歯医者さんに行く時にどんな体験をしたかは、二～五つ目のまとまりの内ようからわかります。

❷ □の次のまとまりに書かれている内ようから、筆者が自力でがんばって歯医者さんに着くことができたことがわかります。

❸ ――と同じまとまりのさい後の、「冒険が、～をプレゼントしてくれました。」という文に注目して読み取ります。

❹ さい後のまとまりの、「失敗した時ほど～進みましょう。」という部分に、筆者の言いたいことが書かれています。

42 ずい筆 言葉を味わう

練習 86・87ページ

❶ 本・インターネット

※じゅんじょがちがっても正かい。

❷ ・世界じゅう～なっている

・植物や動物～まっている

※じゅんじょがちがっても正かい。

❸ イ　❹ ア

かいせつ

❶ 二つ目のまとまりのさいしょの「そうすると」の「そう」は、動物園である動物を見て、その動物に興味がわき、すきになることを指します。

❸ さいしょのまとまりに、〝動物園は野生へのまど〟という、にたような表げんがあることに注目します。

❹ さい後のまとまりの「動物をとおして～考えたりする第一歩になればいい」が、筆者のつたえたいことです。「そういうこと」は❷でとらえたことを指しています。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　23　2024/01/24　13:35:03

43 ずい筆 言葉を味わう

おうよう 88・89ページ

❶ 晴れて・雨が降る

❷ れい 空をみるだけで天気をいいあてるところ。

❸ 運転手さん

❹ イ

かいせつ

❶ ①――の直前の、運転手さんと「私」とのやりとりに注目します。「私」が感じていることとはちがうことを運転手さんがいったので、おどろいたのです。

❷ ②――の直前の部分に注目します。「空をみるだけで天気をいいあてるなんて」とあります。

❸ 子どものころの運転手さんとおじいさんの話をきいて、「私」は空をみあげている老人と小さい男の子の様子を思いうかべたので、「小さい男の子」は運転手さんのことです。

❹ ④――の次の文に「～からです」と、理由が書かれています。空をみあげて天気予測をするというのは、自ぜんと直せつふれ合うことだと考えられます。

ずい筆の読み方

ずい筆を読むときには、筆者の体けん・事れいと感想・意見に注目しましょう。

れい 88・89ページ

【文章】あまんきみこ『空の絵本』

・筆者の体けん・事れい

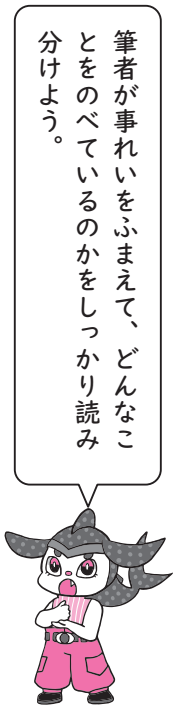
…晴れた日に、タクシーの運転手さんから雨が降るといわれる。

…空をみるだけで天気をあてられる、運転手さんのおじいさんの話をきく。

・感想・意見

…どきっとする。

…天気予測をするため空をみあげるという、原始的で豊かな時間を失っていることに気がつく。



0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 24 2024/01/24 13:35:03

44 詩・短歌・俳句 言葉を味わう きほん 90・91ページ

❶ あしあと　❷ イ
❸ ぶどうのように　❹ ①エ　②ア

かいせつ

❶ 詩の題名にも注目しましょう。つたの葉っぱに秋のあしあとがのこっていたり、いわし雲に風のあしあとがのこっていたりすることを表しています。

❷ この詩の「あしあと」とは、〝何かがのこしたしるしやあと〟ということを表しています。「わたしのなかに／つづいてる」ものとは、「私」が今までにやってきたことだと考えられます。

❸ 四つのまとまりの一行目で、同じ言葉がくり返されています。

❹ ①は、ぶどうの実がいくつもかたまってぶどうのふさになっている様子から考えます。②は、ぶどうに、分かち合うことによってひとりひとりによろこびがつたわっていくせいしつがあることから考えます。

45 詩・短歌・俳句 言葉を味わう きほん 92・93ページ

❶ 緑・赤　❷ 氷・三日月
❸ (1)③冬・木枯　④秋・すすき
(2)③　(3)はらり

かいせつ

❶ (意味)に、「草のわかばの緑の中」「削った色鉛筆の赤い粉」とあります。このように、自ぜんの「緑」と人工てきな「赤」の取り合わせがいんしょうてきな短歌です。

❷ 湖の氷が解けて、春先になっていますが、まだ寒さがつづいているという様子をうたった短歌です。湖面にうつり波にゆれている三日月のするどい形に、寒さをいっそう強く感じていることが分かります。

❸ (1)③「木枯」は冬のはじめにふく強い北風、④「すすき」は月見のおそなえなどに使う秋の植物です。
(2)人間ではない「木枯」に、「帰る」という人間の動作を表す言葉を使っています。
(3)「はらり」は、おりとったすすきの重みを表しています。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　25　2024/01/24　13:35:03

46 詩・短歌・俳句 言葉を味わう 練習 94・95ページ

❶ イ　❷ ヨット　❸ ウ
❹ ・東…かぎろひ　・西…月
❺ イ

かいせつ

❶❷ 蝶の羽を「ヨットのようだ」としているので、蝶の羽をヨットに、その下にある土を海にたとえていることが分かります。

❸ 土の上を蟻が蝶の羽をひっぱっていく様子を、ヨットが海の上を進む様子にたとえている詩であることをおさえましょう。

❹ (意味)を見ると、「かぎろひ」は、夜明けの太陽の光であることが分かります。東の空に太陽を見た作者は、そのまま西をふり返って月を見た、ということがうたわれています。

❺ 力の弱いやせたかえるに、作者の一茶が、味方のように、「一茶がここについているぞ」と声をかけてはげましている様子がえがかれています。

47 詩とかんしょう文 言葉を味わう 練習 96・97ページ

❶ イ　❷ ウ　❸ (1) ウ
(2) 友情・やさしさ
※じゅんじょがちがっても正かい。

かいせつ

❶ 「恐しい夢のなかに」人間がいるというのは、動物にとって人間がこわいものだということを表しています。

❷ 「人間の自分勝手な暮らし方」が、動物たちの生活をどうしてしまうのかを考えます。「おびやかす」は、「こわがらせる。きけんなじょうたいにする」という意味です。

❸ (1) ②――の次の文に、「動物を愛しましょう」ということばに対する筆者の考えが書かれています。
(2) さい後の文に、「それは、～からです。」と理由がせつ明されています。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　26　2024/01/24　13:35:04

48 短歌・俳句とかんしょう文 言葉を味わう

おうよう 98・99ページ

❶ 春・子どもたち・手まり
❷ 幸せ・ゆったり
❸ 飛べない雀～いるようす
❹ あわてる雀
❺ れいどこに向かって・にげようか

かいせつ

❶【かんしょう文】の一文目に、この短歌にえがかれている内ようが書かれています。

❷【かんしょう文】のさい後の文に、筆者がこの短歌を読んで感じたことが書かれています。

❸「むら雀」とは、「むれをなしている雀」という意味なので、数羽の雀が草の葉のかげにいることをとらえましょう。

❺「夕だちや～」の俳句の形をかりて、自由に俳句を作ります。小さい「っ」がつく場合は二音、小さい「ゃ・ゅ・ょ」がつく場合は一音、のばす音は二音に数えることをおぼえておくとよいでしょう。

49 せつ明文 くらべて読む

きほん 100・101ページ

❶ (1)青空・夕焼け　(2)ぶつかる・散らばる
❷ ・青に近い光…散らばりやすい
・赤に近い光…散らばりにくい
❸ ア…青　イ…赤
❹ イ

かいせつ

❶(2)①――の次の段落に、「太陽の光には、～という性質があります。」とあるので、そこから読み取ります。

❷第二段落から読み取りましょう。

❸図を見ながら、第四段落の内ようを読み取りましょう。アは、「青に近い色の光は～なくなってしまいます」、イは、「最後に残った～散らばる」というせつ明をもとに考えましょう。

❹第三段落に「晴れた日の昼間の空が青いのは、太陽の光が空気の層(大気けん)にとつ入してすぐに、青に近い色が散らばるから」とあります。この内ようと合っているイが正かいです。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　27　2024/01/24　13:35:05

50 せつ明文 くらべて読む

きほん 102・103ページ

❶ (1) 五十・九
(2) 世界中からかき集めて

❷ 手に入りにくく・加工

❸ ウ

かいせつ

❶ (1)第一段落で、具体的な数をあげています。

❷ ②――の後から読み取れます。「代用」とは、「代わりに使う」という意味です。

❸ アは、【図】に「遠洋漁業」「沖合漁業」などの漁業の種類がしめされていますが、【文章】には書かれていません。イは、【文章】の第七段落に「海外の魚や深海魚などが利用されている」と書かれていますが、【図】にはしめされていません。ウは、【文章】の第六段落に「漁かく量が減った」とあります。また、【図】からも魚のとれる量が減っていることが分かります。両方から分かるので、ウが正かいです。

51 せつ明文 くらべて読む

練習 104・105ページ

❶ 物語・絵本・図かん・れきしの本

❷ ア・エ

❸ イ

❹ エ・ア

かいせつ

❷ 「二つえらんで」とあることに注意しましょう。「物語や絵本は約五百さつ、図かんやれきしの本は約四百さつ」、『こんな本が読みたい！』というきぼうも受けつけています」とあることから、ア・エが正かいです。

❸ ②「これ」は、「図書室に来た人の目てき」の表を指しています。表から、「本を読むいがいの目てきで図書室をりようした人」は合わせて十二人いることが分かるので、イが正かいです。

❹ 【しりょう一】では、本のしゅるいと数をしめして、図書室のりようをすすめています。【しりょう2】では、図書室に来る目てきが本を読むことだけではないことをしめして、りようをすすめています。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 28 2024/01/24 13:35:06

52 せつ明文 くらべて読む

練習 106・107ページ

❶ 消費者・食品ロス
❷ イ　❸ ウ
❹ 処理・税金

かいせつ

❷ ――の直後に「手前が残ってしまいます」とあることから、イが正かいです。

❸ 【図】に、大きく「てまえどり！」とあることからも分かるように、食品ロスを減らすために、食品のたなの手前から商品を取ることをすすめるポスターです。よって、空らんには「たなの手前の商品」が入ることが分かります。

❹ 【図】の□アには、「食品ロスで一世帯あたり月五〇〇〇円のムダが！」と書かれています。これは、【文章】の第六・七段落にある売れ残った食品が捨てられるときにかかる費用についてのせつ明と共通のことを表しています。つまり、食品の処理費用にかかる税金のことを指しているのです。

53 せつ明文 くらべて読む

おうよう 108・109ページ

❶ 安く大量に
❷ 貧しいまま・れい服を山ほどつくって、新しくても余ったらすてるから。
❸ イ
❹ れい安い服を買わずに、かんきょうによいそざいを使っている服を買う。

かいせつ

❷ 表にファストファッションの問題とその原いんをまとめます。一つ目は、②――の後にある、「と上国の人たち」についての問題だと分かるので、「貧しいまま」を書きぬきます。二つ目は、段落のさい後の「ゴミやCO_2をたくさん出す」問題だと分かるので、その前の「服を山ほどつくって、～余ったらすてちゃう」をもとに書きます。

❸ あやのさんが「買った服」を「大切に着ようと思った」理由を考えます。【文章】の第二段落を見ると、ファストファッションの問題は、まだ着られる服をすててしまうことだと分かります。よって、イが正かいです。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　29　2024/01/24　13:35:06

54 せつ明文 くらべて読む

おうよう 110・111ページ

❶ 四・七　❷ 木〈森〉・管理して利用

❸ ア…天然林　イ…人工林

❹ れい・人工林の木で作られたせい品をなるべく使うようにする。

・日本の木材を使ったわりばしや、紙パックの商品を買う。

かいせつ

❶ 森林利用率について、「スウェーデンやフィンランドは～七割」「日本は四割」とせつ明しています。

❸ 【しりょう】の［ア］・［イ］の後にあるせつ明に注目します。アの後には、「自然に～成長してできた森林」とあることからアは「天然林」、イの後には、「人の手で～育ててきた森林」とあることからイは「人工林」が合うことが分かります。

❹ 【文章】には日本の森林利用率が少ないことや、人工林は適切な手入れをしないとあれてしまうことが書かれているので、日本の木材や人工林の木で作られたせい品を使うようにすることなどがあげられます。

くらべて読むとき

文章やしりょうなどをくらべるときは、同じところ・ちがうところに注目しましょう。

れい 110・111ページの【文章】と【しりょう】、【会話】

【文章】新美景子『自然と環境をまもるきまり』

【しりょう】農林水産省「ジュニア農林水産白書」

【会話】あみさんと先生の会話

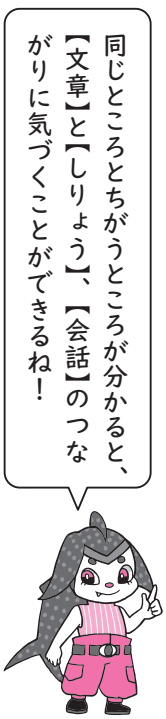
・同じところ…森林の利用についてのべている。

・ちがうところ

…【文章】は、「森林利用率」をあげて、森林を管理して利用していくことの大切さをのべている。

…【しりょう】は、森林のしゅるいをくわしくせつ明している。

…【会話】は、森林にかかわる仕事をする人をふやす方ほうについて話している。



0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　30　2024/01/24　13:35:07

55 物語 たしかめテスト①

112・113ページ

❶ 葉っぱ（の絵）・せかせかひつじ

❷ 〔れい〕わるいことをした〈ひどいことをした〉・あやまった

❸ ウ

❹ 〔れい〕かなしいとおもった〈がっかりした〉・おもったよりもいい絵だと、気に入った〈あかるい気持ちになった〉。

かいせつ

❶ ①――の後ののろのろひつじのこころの中の言葉をよく読みましょう。

❷ ②――の次のまとまりを読んで、（　）に合う言葉を考えましょう。

❸ ③――の直前の「そうおもってみると、」に注目します。「そう」は、さらに前の「森は、かんせいして～かがやいているのです。」の部分を指しています。

❹ はじめは、かってに葉っぱをかかれたことがかなしく、がっかりしていましたが、森がかんせいしているのをみて、おもったよりもいい絵だと感じ、あかるい気持ちになりました。

56 せつ明文 たしかめテスト②

114・115ページ

❶ 周期・分せき

❷ イ

❸ 場所・過ごしてきたか

❹ ウ

かいせつ

❶ ①――の後に、「昔の人のなにげない日記や、ちょっとした書きつけ（メモ）や手紙などから、どのぐらいの周期で大きな地しんが発生するかまで分せきできる例があるから」とあります。

❷ ②――の後に、「デジタルデータでは、古書の紙がもつ手ざわりや重み、においなど、五感にうったえる質感は再現できません」とあります。

❸ ③――の後の金野さんの言葉を見ると、「紙に向きあっていると、その紙がいつ、どんな場所で生まれ、どんなふうに過ごしてきたかまで想像できるんです。」とあります。

❹ ④――の前の金野さんの言葉の中に、「長い時間を生きのびてきた紙には、現在までの人々の記おくまで残されているのです」とあります。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd　31　2024/01/24　13:35:07

57 詩とかんしょう文 たしかめテスト③

116・117ページ

❶ (1) イ
(2) ニ・とても遠くまで飛んでいってしまった

❷ ウ

❸ 人間のたのしい気持ちや理想

かいせつ

❶ (1) ①——では「たかく」、②——では「どこまでも」という言葉が、くり返されています。表現のくふうには、他に94ページで出てきた「たとえ」などがあります。

(2)【かんしょう文】の二文目に注目します。「たかく」と「どこまでも」をくり返すことによって、「とても遠くまで飛んでいってしまったこと」が強調されているとあります。

❷ ③——には、蝶がかえって来なかったことに対する気持ちがこめられています。その気持ちを【かんしょう文】の四文目から読み取りましょう。

❸ 【かんしょう文】のさい後の文に注目します。

58 せつ明文 たしかめテスト④

118・119ページ

❶ 二酸化炭素〈CO_2〉・にげる・あたたまる

❷ 温室効果ガス・熱・気温

❸ 排出量・吸収量・ゼロ

❹ ア

かいせつ

❶ ①——の前に「このしくみ」とあるので、前の部分に注目します。「地球の大気にふくまれる～あたたまる。」とあるので、この部分をもとに書きます。

❷ ②——の前に「これが」とあるので、前の部分に注目します。「大気中の温室効果ガスが～気温が上がっている」とあるので、この部分をもとに書きます。

❸ ③——の後で、カーボンニュートラルについてくわしくせつ明されています。

❹ ❸で、【文章2】から「カーボンニュートラル」は温室効果ガスの排出量を実質的にゼロにすることだと読み取りました。【文章1】から温室効果ガスは地球温暖化の原いんになることが分かるので、地球温暖化をかい決するための取り組みであると分かります。よって、アが正かいです。

0001-0032_1_公文_読解drill国語_3年_KK_InD21.indd 32 2024/01/24 13:35:08